YMCA NEWS 金沢青年

HP 版 No. 9 （2006 年 10 月号）

発行所：金沢キリスト教青年会 本部 〒920-0998 金沢市里見町 44－1 里見タウンハイツ 201
TEL/FAX（076）221-5398 http://www.ys-chubu.jp/kanazawaymca/

大きな働きは小さく始まる

金沢 YMCA 理事　田口　昭典

私がYMCAと直接的な出会いを経験したのは今から20年ほども前のことです。当時私は北九州市の若松というところで牧師の務めをしておりました。そのころ、高校を中退した若者が大学受験資格を取るため一人住まいを始め、私の所にやって来ました。そして、彼は北九州YMCAの予備校に入学し、大学受験資格検定に合格、さらに関西のキリスト教主義大学に入学しました。

私は親代わりという責任を負い、予備校の教師としばしば話し合い、この教師が実に真剣に若者のために心を用いて励ましていることを、身をもって知りました。朝寝坊をして遅刻をすると、必ず私のところに電話があり、決して欠席することがないようにきめ細かな配慮がなされました。

私は一人のYMCAの職員と出会い、YMCAを知りました。それまでもYMCAの名前は知っていました。英語を教えるとか、キャンプを企画するとか、あるいは、ホテルやホテル学校があるなどということも知っていました。しかし、私は YMCA が行なっている様々な事業のすばらしさに勝って、そこに働く人々、またその活動を支える多くの方々の考え方や生き方に共感を覚え、また尊敬の念を深くしました。

ロータリクラブやライオンズクラブなど優れた実績を持って社会奉仕をしている団体も数多くありますし、ギデオン協会のように聖書配布を通してキリストの愛を伝えるというクリスチャンの団体もあります。数ある奉仕団体の中で、YMCA はキリスト教の教えを土台としつつ、キリスト者以外の多くの賛同者を得てなされている点が素晴らしいと思います。キリスト者と非キリスト者が一つのチームになって、共に主の恵みを喜び合っていく働きが YMCA の働きです。活ける真の神の御手の中で、様々なボランティアスピリットが結び合わされ、整えられて YMCA の働きが進められてきました。

私は北九州で YMCA 予備校の入学式の礼拝でメッセージをさせていただきました。予備校は心ならずも志望校に入学できなかった方々、言い換えれば、努力が報われず、がっかりしてしまった方々の再出発の場です。YMCA 予備校だから聞けるメッセージがあります。慰めと励まし、勇気を得てチャレンジしていく力は聖書から、すべての方々に備えられています。挫折体験が神の恵みになるように祈り、私は心から「おめでとう」を言うことができました。総主事の F 先生が喜んでくださったのをいまでも覚えています。

私はいま、金沢 YMCA の理事という責任をいただきながらも、未だ何もできていない自分を恥ずかしく思っています。しかし、「大切な働きは小さく始まる」というのが私の信仰です。ベルリンの壁の崩壊は小さな祈祷会から始まったと言われています。聖書の御言葉も、「からしだね一粒の信仰」の豊かさと可能性を語ります。小さいことが貧しいことではありません。失敗は恥ずかしいことではありません。むしろ失敗を恐れてチャレンジしないほうが恥であると私は自分に言い聞かせています。

「YMCA」という素敵な歌があります。かつて西城秀樹がジェスチャー入りで歌いヒットしました。YMCA の名前は広く一般社会の人々に受け容れられています。先達が残された数々の働きを検証しつつ、今の時代に YMCA だからできる働きを整えていかなければならないと思います。YMCA の栄えある名に恥じない、否、この名にふさわしい歩みを整えていきたいと心から願っています。

いま、金沢 YMCA は確かに新しい歩みの一歩を踏み出しました。多くの方々のご賛同とご支援をいただき、共に YMCA の使命を担っていきたいと願っています。

《 YMCA と私 》

YMCA との関わりと思い出

金沢 YMCA 監事
金沢ワイズメンズクラブ会長 草野 功一

本年６月、同盟より「25 年継続会員」の表彰を受けました。

顧みれば、昭和 53 年（1978 年）10 月、京都地区のワイズメンズクラブに入会すると同時に維持会員となり、その後、京都 YMCA の正会員となって以降、主にワイズメンとして、YMCA の活動と運営をサポートすることとなりました。しかし、実は、私と Y との関係は、会員となる 25 年以上も前、小学校 6 年の時（1953 年）に、当時としてはまことに殊勝にも英会話教室に通った頃に遡るのです。夏休みには淡路島キャンプにも参加したのですが、折悪しく豪雨に見舞われた中、リーダーのお兄さん・お姉さんが私たち参加者を励まし楽しませるため、懸命に努力していただいた姿が、半世紀以上を経た今でも、強烈な印象として残っています。また、クリスマスのキャンドルサービスや賛美歌を、ハイカラで興味深く感じたのも懐かしい思い出です。

還暦を過ぎ、縁あって加賀金沢の地に来た直後の平成 15 年（2003）7 月、金沢ワイズメンズクラブに入会し、金沢 Y の会員になって、金沢 Y と関わりをもつこととなりました。しかも、60 周年という記念すべき今期、金沢クラブの会長という大役を担うこととなりましたが、金沢クラブの歴史は、金沢 YMCA の歴史そのものであることや諸先輩の貴重な働きの一端を知ることができました。

現在、金沢 Y に対する金沢クラブのサポート内容は限られていますが、少しでも Y を発展させ、青少年の健全な育成に対する貢献・支援の輪を広げるため、役に立つべく決意を新たにしています。

金沢 YMCA 設立 60 周年にあたって

金沢 YMCA 常務委員
金沢犀川ワイズメンズクラブ会員　三谷　信三

今年は金沢 YMCA 設立 60 年の記念の年である。父が YMCA の発起人の一人であり、初代理事であったことから 1946 年 9 月 8 日設立と同時に入会した。会員番号は 9 番であった。YMCA は、戦後まだ礼拝を行なっていなかった野町教会を借りて活動をはじめた。そして、二階の一室に初代主事高山章氏が住み、集会は礼拝堂を仕切り、空いている部屋を使って行なっていた。戦争も終わり、これからは英語を話せなければ世の中に通用する人間になれないと、英会話（E・S・S）教室に通った。しかし英会話より平石英雄氏のレコードコンサートを聴いたり、卓球で遊んだりしていることが多かった。

1947 年から教育界は 6・3・3・4 制が実施となり、金沢の県立中・女学校は金沢一高（男子校）、金沢二高（女子高）、金沢三高（男女共学）が作られた。そして金沢一高と三高にハイ Y が結成された。その前年、一中、二中、三中の生徒が YMCA に入会し、特に二中には西脇先生、俵さんなど熱心な方々の大きな力により、多くの会員が加入した。1948 年教育改革により、学校名も泉丘、桜丘、菫台、金沢大学付属高校に変わり、ハイ Y が結成された。

6 月 28 日午後 5 時、福井市を中心に大聖寺（現・加賀市）あたりまで、約 2 万戸が震災をうけ、6 千 500 戸が焼け、2 万余の死者を出した。金沢 YMCA は直ちに救援活動を開始した。高山主事は金沢教会の上河原牧師を災害対策委員長として上京、同盟、東京 YMCA、全国 YMCA に呼びかけ、福井震災救援事業として全国的に展開することができた。

一方、県境の江沼郡塩屋村（現・加賀市塩屋町）は全滅に等しい被害を受けた。そこで金沢 YMCA は、ハイ Y のメンバーを中心に会員によるワークキャンプを計画、いっさい村民の手を煩わせずに自活することとし、食糧持参で 7 月 23 日から 1 週間交代で活動し、参加者はのべ 40 名となった。戦後の食糧難でジャガイモが主食であり、ひもじい思いであったが、全員元気いっぱい午前と午後に倒れた家の後片付けをした。昼休みには村の子供を集め、歌や紙芝居、ゲームをし、夜は浜辺で星空を眺め、キャンプファイヤーを囲み、肝試しなどして、感謝にあふれた青春の日々であった。今も金沢ハイ Y 連盟のキャンプが続いている。

****

ワイズメンズクラブからのお知らせ

【金沢・金沢犀川クラブ共通】

帯広 YMCA じゃがいもファンドよりジャガイモを購入して販売。日程：10 月 9 日（月・祝）10:00、場所：梅光園玄関口に入荷、品種：農林 31 号。

【金沢クラブ】

10 月例会　日程：10 月 19 日（木）18:30～20:30、場所：金沢ニューグランドホテル。

【金沢犀川クラブ】

10 月第一例会（EMC・バーベキュー例会）　日程：10 月 9 日（月・祝）、場所：医王の里、会費：会員 1,500 円・ゲスト 3,000 円。

《 活動報告 》

「テントの受領式」に参加 して

金沢 YMCA 会員
金沢犀川ワイズメンズクラブ会員 北 肇夫

先般、日本YMCA同盟は財団法人 日本宝くじ協会から助成品（集会用テント 16 張り）をいただくことになり、金沢YMCAも招待され、その受領式に代理人として出席しましたのでご報告します。

今年7月4日（火）、日本YMCA同盟（ジョン R. モット記念会議室）に、北は北海道から南は沖縄までの YMCA16 団体が参集しました。その「受領式」に先立ち、開会礼拝があり、讃美歌斉唱・聖書拝読・祈祷の後、昼食をいただきながら懇談の場が持たれました。また、各 YMCA からの活動報告なども行われました。

「受領式」の開催にあたり、全員で会場の設営を変更して臨みました。その会場の壁には、各種の助成品を活用した活動状況のパネルが飾り付けられました。これは宝くじ協会への YMCA の活動を強く印象付ける効果的な手段だと思いました。

はじめに、日本宝くじ協会から日本YMCA同盟山田公平総主事に集会用テントの贈呈状が授与されました。山田総主事と土肥和美さん（富山YMCA）のお二人からは、感謝の言葉が述べられました。金沢YMCAでもこのテントの受領を感謝して、大いに活用されることを希望します。

また、前年度（2005 年度）に助成品を受領した千葉 YMCA 三橋和弘さんからは、助成品を活かした活動紹介がパワーポイントによるスライドショウ

の形式で行われました。その内容は、環境教育車と環境教育の諸機材についてであり、その行動範囲の広さと幅広い環境教育機材の活用が紹介され、「受領式」は無事終了しました。

終了後、熱海・福知山・沖縄と金沢の YMCA には、山田総主事との懇談の場が持たれました。今回は、松山・鳥取の YMCA の出席はありませんが、この 6YMCA の団体は、専任職員がいないボランティアのみによって運営されており、この問題を協議する「6YMCA 協議会」が設置されています。山田総主事は、リーダーの育成・技術の伝承、新入会員の獲得などの課題について述べられ、また、これからの活動への期待などを語られました。

NAGASAKI1945 アンゼラスの鐘

金沢 YMCA 理事
金沢ワイズメンズクラブ会員 数沢 輝夫

7 月 23 日、金沢 YMCA が後援した被爆 60 周年平和祈念作品・長編アニメーション『NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘』が石川県文教会館ホールにて上映されました。

1945年8月9日、被爆地ナガサキ。この映画は爆心地から 1.4 キロ離れた病院で働いていた青年医師秋月辰一郎が、自ら被爆しながら病院のスタッフとともに瀕死の被爆者に必死の治療を続け、その苦悩から生まれた人類愛への目覚め、そして再生への 40 日間の物語です。

爆心地から同心円的に死者が拡大していく恐怖。医師としてこれまで経験したことのない被爆者の無残な症状。科学者としての秋月は当初から核爆弾が使用されたことを確信しますが、それを目の前にしてなすすべがない。この映画は科学者としての医師の目を通して被爆の恐怖を伝えています。

「人間が開発し、人間が実験し、人間が実行した原爆投下。人類史上かつてないほど凄惨な経験を強いられたナガサキ。あの夏の日から核兵器は世界に拡散し続けています。21 世紀のいま、被爆地長崎からあらためて『世界のどこにも二度と原子爆弾を落とさせない』というメッセージを、この映画を通して世界の人々に伝える責任があります。」

しかし、人間が製造したものなら人間の力で廃絶することもできる―という希望があります。「核兵器廃絶」の運動は宗教・思想を超えて、一人ひとりの意思による結集、協力して世界的な広がりを見せています。

1992 年、秋月さんは喘息の発作で倒れ、亡くなるまでの 13 年間、被爆直後にケガ人の治療に奔走した浦上第一病院（現・聖フランシスコ病院）で昏睡を続けました。「原爆の悲劇は長崎で終わりにする」という医師・秋月辰一郎さんのこの思いを映画に託して、2005年10月、この世を去っていかれました。

“原爆投下 その瞬間”

長崎市北部の上空にアメリカの爆撃機 B29 飛来。高度1万メートルから投下された爆弾は、上空 500 メートル付近で炸裂。1 秒後に直径 280 メートルの激しい光線を放つ巨大な火球となる。火球は爆発

の瞬間で摂氏百万度、1 秒後には表面温度 5000 度になり、太陽が落下してきたような恐怖に包まれる。すさまじい爆風と高温は、瞬間にすべてのものを破壊した。長崎の街は被爆し、当時の人口(約 24 万人)の 3 分の 2 が死傷した。(長編カラーアニメーション映画 被爆 60 周年平和祈念作品の資料より)

みどりっ子キャンプ in キゴ山少年自然の家

8 月 5･6 日の一泊二日の日程でキャンプを行いました。2 日間とも晴天で暑すぎるぐらいの陽気でしたが、子供たちは暑さに負けることもなく、元気いっぱいに過ごしました。

1 日目のプログラムはテント設営、クイズラリー、カレーライス作り、キャンプファイヤーでした。キャンプファイヤーでは、赤々と燃える火を囲みゲームやダンスをしました。日中、暑い中たくさん歩いて疲れているはずなのですが、みんなのテンションは最高潮！大きな声で歌い、体をめいっぱい動かし、楽しかった 1 日目を終えました。

2 日目のプログラムは朝食のおにぎり作り、水遊び、昼食のパン作り、テント片付け、木ホルダー作りでした。水遊びでは水鉄砲で的を打ち落としたり、友達同士で打ち合ったり、水をかけてあるブルーシートの上をスライディングしたりしました。ブルーシートのスライディングでは、最初は勇気が出ず恐る恐るやっていた子も、回を重ねるごとに思い切りよく滑ることができるようになりました。正座をしたまますべる子、頭からヘッドスライディングをする子など、滑り方は様々です。中には勢いがありすぎて、ブルーシートからはみ出る子もいました。暑い中での水遊びだったのでとても気持ちよく、思う存分楽しみました。

もっともっと遊びたかったのですが、楽しかった 2 日間はあっという間に過ぎてしまいました。また、秋のもみじっ子キャンプでみんなに会えるのを楽しみにしています。

O.Y.

ぼうさい探検隊

9 月 16 日、街中を探検して防災について学ぼう！という「ぼうさい探検隊」を実施しました。午前中は道路や歩道に設置してある防災に関する設備などをチェックしながら街中を歩き、交番、消防署、防災資機材倉庫などを回りました。消防署では、消防車の説明や救急車の中を見せてもらったり、はしご車に乗せてもらったりしました。ハシゴ車の試乗では、地上 30 メートルのところまでハシゴを伸ばしてもらい、降りてきた子供たちは「怖かった」「楽しかった」と少し興奮気味に話してくれました。金沢市内にはハシゴ車が 3 台あり、最も高く上るものは地上 50 メートルまでいくそうです。しかし、それでも 16 階程度までしかいかないということを聞き、17 階以上のビルでの火災ではなすすべがないことを知りました。今回は試乗でしたが、実際には使用することがないことを願うばかりです。

午後からは YMCA の事務所で午前中の探検をまとめるために「ぼうさいマップ」を作りました。参加者が小学 2 年生ばかりで低学年ということもあり、お巡りさんや消防士さんに聞いたことをまとめるのがなかなか難しく苦労しましたが、リーダーの手助けもあり、約 2 時間、集中して作り上げることができました。今回作成したマップは、日本損害保険協会が実施している「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に応募します

O.Y.

《 インフォメーション 》

【秋のクリーンキャンペーン】
日程:10 月 15 日(日)7:00～8:00、場所:金沢 YMCA 周辺、内容:清掃。

【もみじっ子キャンプ】
日程:10 月 21 日(土)9:00～16:30. 集合･解散:金沢教会(柿木畠)、活動場所:石川県森林公園、内容:野外料理･秋探し･動物園散策、対象:小学生、定員:20 名、参加費:4,000 円。

【金沢わいわい寄席】
日程:10 月 27 日(金)、開場 18:30、開演 19:00、場所:石川県立音楽堂交流ホール、演者:二代目森乃福郎･桂丸福、入場料:1,500 円(ドリンク付)。

【親子イモ煮会】
日程:10 月 28 日(土)11:00～14:30、場所:石川県森林公園、集合･解散:現地、内容:イモ煮･レクレーション、対象:小学生とその保護者･兄弟姉妹、定員:10 組、参加費:子供無料･保護者 500 円。

※お問い合わせは、金沢 YMCA 事務所（小野）に。